

令和7年度第1回子育て広場

ようこそ うとようちえんへ

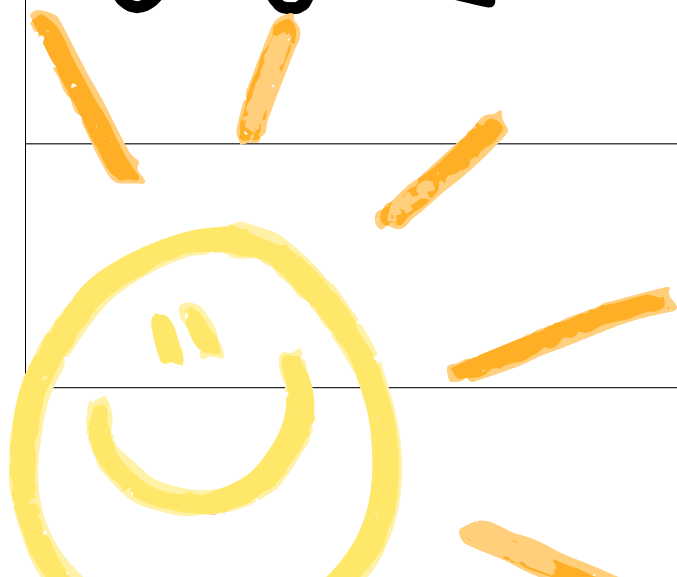


令和7年6月11日（水）

園児数

5/1現在

名称	学年定員 (学級)	現員		
		男	女	計
うめ 年長	40(30)	11	10	21
ばら 年中	40(30)	9	5	14
ひよこ 年少	30(20)	5	6	11
		25	21	46





職員の配置について

担任 補助

年長（うめ）	… 2人	1人
年中（ばら）	… 2人	1人
年少（ひよこ）	… 1人	2人

午後からの補助・預かり保育 2人

園長 主任 事務 用務 15人

宇土幼稚園の特色

- 1 文部科学省の幼稚園教育要領に沿った教育の実践
「子ども主体」の教育を展開
- 2 インクルーシブ教育の充実
- 3 一時預かり保育（在園児のみ）
7：30～9：00、15：00～18：00
- 4 完全給食
宇土市給食センターで調理・配送（アレルギー対応）
- 5 開かれた幼稚園（多彩な行事、情報発信）
- 6 小規模保育園との連携（9/1～2階にオープン）



1 子ども主体の教育

「見て、触れて、遊んで感じる」
「笑って、遊んで、うれしくなる」

子どもは遊びの中で育つ

環境を通した教育の展開

「身近な環境に関わって心が動き、イメージが湧き起こると、遊びが生まれる。同じ楽しさを味わう仲間が集まって、遊びが広がる。こんなふうにして、子どもたちは大きくなる。」

宇土幼稚園教育目標

「感性豊かで学びに向かう子供」

「元気に遊ぼう・仲良く遊ぼう・考えて遊ぼう
～わくわく・にこにこ・ときどき～

幼児期は、**自発的な活動としての遊びを通じて**生涯にわたる人格形成の基礎を築いていく時期である。

幼児教育は、**「環境を通して行う」ことが基本**であり、幼児が自ら積極的に、人やもの、自然現象などの環境に関わり、体験を重ねることで、生きる力の基礎がはぐくまれるよう、計画的に環境を構成することが大切である。（文科省）

幼児教育において育みたい資質・能力について

学校教育全体

学んだことを人生や
社会に生かそうとする
**学びに向かう力、
人間性**など



実際の社会や
生活で生きて働く
知識及び技能

未知の状況にも
対応できる
**思考力、判断力、
表現力**など

幼稚園での
生活を通して

幼稚園ではその基礎を育成

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

- 健康な心と体
- 自立心
- 協同性
- 道徳性・規範意識の芽生え
- 社会生活との関わり
- 思考力の芽生え
- 自然との関わり・生命尊重
- 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- 言葉による伝え合い
- 豊かな感性と表現

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

(1) 健康な心と体

幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

(2) 自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

(3) 協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

(4) 道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

(5) 社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

(6) 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

(7) 自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にする気持ちをもって関わるようになる。

(8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

(9) 言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

(10) 豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。※「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示）より

子ども主体とは（トラブル解決の例）

1 子ども同士のトラブルは成長の大切な一歩

- ・おもちゃの取り合いや意見の食い違いが起こるのは自然なこと
- ・子ども同士のトラブルの体験は、決して悪いことではない

「どうすれば仲良く遊べるのか」「相手を傷つけないためにはどうすればいいのか」を学んでいく

2. 私たちのサポートと見守り方について

- ・トラブルが起きたときには、すぐに仲裁するのではなく、子どもたちが自分で解決しようとする姿勢を見守る

- ・優しく声をかけながら解決のお手伝いをする

子どもたちは少しずつ「自分で解決する力」を身につけていく

但し、時には小さなトラブルが起きたときに、保育者がすぐに気づけないこともありうることを理解しておいてください。

3. 保護者の皆さまと一緒に成長を見守りましょう

- ・保護者の皆さまと一緒にお子さまの成長を支えていく
- ・トラブルでお子さまが悔しい思いをすることもある。それも貴重な体験

園で起きた出来事やお子さまの様子について、ご家庭とも適切に連携を取りながら対応する

保育の質を上げる職員研修

全職員研修会（毎月第2週水曜日）

- ★毎月第2週水曜日
全職員研修会
- ★毎年2回宇土市2園
合同研修会
- ・R7年度
- 8/28…花園幼稚園
お絵描き指導
- 9/10…宇土幼稚園
音楽指導

8/5の県大会で
も発表しま
す！

令和7年度は、
九州国公立幼稚園・こども園教育研大
会
長崎大会で研究発表を行います。
11月13日（木）・14日（金）
主任とU教諭が発表者

—研究主題—

園の実態に即した幼幼・幼小連携の
創造

～「できそう！」「楽しそう！」「続
けられそう！」の視点を通して

2 インクルーシブ教育の充実

インクルーシブ教育とは…

障がいや国籍、人種、性別など、さまざまな違いや課題がある子どもたちが共に学ぶ教育

「包み込む」「包括的な」という意味があり、誰も排除されない環境をつくることを目的としています。

みんな違って、みんないい

インクルーシブ教育のメリットと課題

1 子どもたちの「理解」や「思いやり」が深まる

- ・子どもたちがお互いの違いを理解し、思いやりを育むことができる

小さなうちから「相手を思いやる」気持ちが自然と身につき、みんなが一緒に楽しく過ごすために助け合う姿勢が育まれる

2 学び合いや助け合いの機会が増える

- ・異なる特性をもった子ども同士がともに遊び、学ぶことで、お互いの成長を促す機会が増える

体験はお互いにとってかけがえのない学びになり、個々の成長を助ける環境が整えられる

3 課題とサポートが必要な部分もある

- ・子どもたちの社会性や感受性を豊かに育てると同時に、大人にもサポートの工夫や配慮が求められる

体験を通じて育つ「思いやり」や「協力」の気持ちは、一生の宝となり、子どもたちが豊かな心を持った大人へと成長する助けになる

療育施設を利用する園児への対応

① サービス担当者会議の活用

相談員が主体となり、保護者、事業所、園長、主任、担任、特支担任との会議を実施する。

「〇〇さんの未来を共に考える会」と銘打って、家庭での様子、園での様子、療育機関での様子等について協議し、それぞれの立場でできることを確認する。

家庭、園、療育機関の3者が同じ方向を向いて、関わっていているという実感を保護者にもっていただけるので、とても意義のある会議だと思っている。

※療育施設用園児…9人 今後増える予定

② 職員同士の共通理解・共通実践

正規職員は、国公幼・子ども園会の研修や園内研修により、多様な子供たちの対応の仕方等について、学ぶ機会を設けている。

月1回の園内研修では、全職員が一堂に会して、一人ひとりの実態について協議している。

全員で、特別支援教育について学び、一人ひとりの実態に応じた対応ができるように保育の質を上げることができつつある。



3 多彩な行事（R7年度）

- 4月…入園式、親子お見知り遠足、個人面談
- 5月…誕生会、サッカー教室（年9回）
- 6月…保育参観、カレーパーティー、プール開き、
祖父母との交流会、
- 7月…七夕会、プール参観、終業式
- 8月…夏季休業日
- 9月…始業式、大太鼓教室（年長）
- 10月…運動会、遠足、ZOOM交流会（花幼と）
- 11月…人形劇（2園合同観劇）
- 12月…発表会、地域の方との交流会、クリスマス会、
終業式
- 1月…始業式
- 2月…豆まき、保育参観
- 3月…ひな祭り会、お別れ遠足、卒園式、修了式

4 情報発信

- ・保育ICTシステム「C o D O M O N」
登降園管理、毎月の園だより、クラス便り、
各種通知の収納、保護者への連絡
- ・宇土幼稚園ホームページ（市外の方への情報提供）
- ・申請やアンケート等もスマホから
- ・日々の活動の様子は動画配信で！
「宇土幼稚園YouTubeチャンネル」（保護者限定配信）
- ・園内の活動の様子をドキュメンテーションとして配信



5 小規模保育園との連携

入所施設：有限会社IQキッズ
入所開始：2025/9/1～
募集定員：19人（0歳～2歳）
保育場所：宇土幼稚園2階の一部
工事開始：5月中旬から

あーす保育園宇土
とも連携協定を
結んでいる

一緒に楽しみ
ましょう

